

## 経済民生

### ◆調査事項

移住定住の推進に  
関する調査



### ◆調査期間

平成28年12月～平成29年6月

### ◆調査目的

地域の魅力や特性を生かした移住定住事業が各地で本格化しているなか、本市においても定住人口拡大や人口減少対策に取り組み、都市の活力を保持し、将来にわたり活力ある社会を維持していくことが急務となっていることから調査を行いました。



### ◆市長への提言内容

#### 本市移住定住事業の方向性の明確化

① 本市として明確な事業目標を持つて効率的に事業を実施していくため、早急に基本方針の策定や移住定住推進計画の策定など、事業の柱と目標を整備し、一定の方向性を持った上で事業を実施すること

#### ターゲットを絞った 移住定住事業の推進

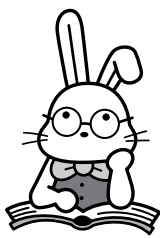
① 早急に移住希望者のニーズ把握と情報収集に努め、本市の地域特性を考慮した上で、例えば「首都圏に進学した学生に対してUターンを促す」「勤務場所を選ばず業務ができるIT関連やメディア関係の職種に対して移住推進を行う」といったような、ターゲットとする対象者の年代や職種などを具体的に絞った移住者目線の事業を推進すること

#### 本市の強み・弱みの整理と 庁内連携の構築

① SWOT分析(※)のような手法を導入し、子育てや福祉、教育、防災など様々な視点における本市の強みと弱みを正確に捉え、本市で暮らす魅力やメリットを分析し、本市が取り組むべき移住定住事業として反映させること

② SWOT分析の手法をきっかけに、他の部局を巻き込み、市全体が一体感を持つて移住定住事業を構築していく体制を少しずつ整備していくこと

### (※)SWOT分析とは？



目標を達成するため、外部環境や内部環境をS(強み)、W(弱み)、O(機会)、T(脅威)の4つのカテゴリーに分けて要因を分析する手法のこと。

## 建設水道

### ◆調査事項

本市の住宅政策に  
関する調査



### ◆調査期間

平成28年9月～平成29年6月

### ◆調査目的

空き家の増加、それに伴う地域コミュニティの活力低下などの課題に対し、市営住宅における既存ストックや民間市場の重視、福祉やまちづくりとの連携等が重要と考え、調査を行いました。



市営住宅の現地調査

### ◆市長への提言内容

#### 空き住戸の有効活用

① 世帯構成や年代に応じたライフスタイルを把握し、入居者のニーズを捉えた改修を検討すること

② 応募倍率が低い住戸に若年層の単身者の入居を可能とするとともに、入居後の状況変化に応じた柔軟な入居替えを認め、空き住戸の有効活用を検討すること

#### 住宅セーフティネット機能の充実

① 空き住戸をストックを活用し、真の住宅困窮者が入居しやすい環境整備のため、同居親族や連帯保証人の要件緩和を検討すること

#### 公平かつ公正な住宅供給

① 入居者に対し、入居後も入居要件の確認を十分に行うなど、入居希望者への公平かつ公正な住宅供給に向けて取り組むこと

#### 老朽団地の集約及び廃止

① 民間賃貸や県営住宅等の状況を踏まえ、本市が持つべきストック量を適切に把握し、計画的に改修や廃止等を進めること

② 老朽団地を集約するにあたり、入居者の理解を十分に得ることはもちろんのこと、グループ単位で同じ団地に入居が可能となるような制度の構築を検討すること

③ 泉団地及び下釜団地の建替え等の具体的な整備方針について、魅力あるまちづくりに資するよう、財政状況や地域コミュニティ活動の観点から十分に検討し、早急に取り組むこと

#### 民間活力の活用

① 借上市営住宅4団地の借上期間の満了に際し、中心市街地活性化を図る観点からも、民間の活力を活用した施策を継続すること

② 民間賃貸住宅に入居する世帯への家賃補助は、初期投資や維持管理費がかからず、中心市街地の空き住宅の活用なども期待されることから、導入を検討すること